

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

平成30年 7月 4日 (水)

2 確認箇所

3号機原子炉建屋周辺 (サブドレンピットNo.209, 210, 211)

3 確認項目

- (1) サブドレンピット水位計固定位置ずれ事象の対応状況
- (2) 増強サブドレンピット等の設置状況

4 確認結果の概要

(1) サブドレンピット水位計固定位置ずれ事象の対応状況について

6月12日に確認されたサブドレンピットNo.214の水位計の固定位置ずれ事象の対応状況について東京電力から聴取した。聴取内容は以下のとおりであり、工事記録写真で当該サブドレンピットの水位計の固定位置ずれ対策が講じられたことを確認した。

- ・水位計の固定位置ずれが発生した原因は、水位計の通信ケーブルを押さえている金具の内側の緩衝材（ゴム製）が剥離して隙間ができたため、通信ケーブルの自重で水位計が下方にずれたものと推定される。
- ・水位計の固定位置のずれを防止するため、剥離した緩衝材を接着するとともに、これまでの金具による押さえに加えて、通信ケーブルを配管の支持架台に治具で固定する対策を講じた。
- ・他のサブドレンピットについても準備が整い次第、同様の対策を講じる。

(2) 増強サブドレンピット等の設置状況について

これまで1号機周辺や4号機周辺の増強サブドレンピット等（以下、「サブドレンピット」を「ピット」という。）の設置状況を確認してきたが、今回は、3号機原子炉建屋西側に設置された増強ピット等の設置状況を確認した。（確認目的は、平成30年6月5日に記載。）

- ・3号機原子炉建屋周辺には、No.209～No.211の3基の新設ピットがあり、3基とも増強ピットに変更されていた。

増強ピットNo.210及びNo.211は、それぞれ新設ピットの近傍に設置されていたが、増強ピットNo.209は、新設ピットの周辺に設備や配管等があり近傍への設置が困難なことから、約20m離れた位置に設置されていた。

- ・ 増強ピットは、これまで確認した増強ピットと同様に、雨水浸入対策として、ピット廻りはコンクリートが打設され、金属製の箱で覆われていた。（写真1）
- ・ 新設ピットは、移送配管や電源ケーブルが撤去されており使用は停止されていた。（写真2）



(写真1-1)
増強ピットNo.209の状況



(写真1-2)
増強ピットNo.210 及び新設ピット
No.210の状況



(写真1-3)
増強ピットNo.211の状況



(写真2-1)
新設ピットNo.209の状況



(写真2-2)
新設ピットNo.211の状況

5 プラント関連パラメータ等の確認

7月4日に、3号機の原子炉注水が給水系（FDW系）の単独注水から、給水系（FDW系）と炉心スプレイ系（CS系）による通常の注水系統に戻された。給水系（FDW系）による単独注水の間（6月27日～7月4日）、3号機

の压力容器の温度、格納容器温度及び圧力に有意な変動は確認されなかった。その他の各パラメータについては、前日と比べ有意な変動は確認されなかった。